

その他ア

令和2年度第2回安芸津歴史民俗資料館ミニ企画展「安芸津と北前船」の開催について

1 趣旨

安芸津歴史民俗資料館を活用し、市民に郷土の文化財の魅力・価値について再認識してもらうことを目的に、企画展を開催しようとするものである。

瀬戸内海は古くから人の移動や物資の交易が盛んに行われてきた物流の道である。江戸時代になると北前船などによる遠隔地交易が大いに発達したのに伴い、各地の港町が寄港地として栄えた。安芸津町では江戸時代中期頃に地元の廻船業者が台頭しており、日本海沿岸各地にその記録が残されている。今回の企画展ではこの安芸津の北前船の歴史についてパネル展示を行い、併せて職員による解説を行うものである。

2 名称

安芸津と北前船

3 会場

安芸津文化福祉センター3階 安芸津歴史民俗資料館

4 開催期間

令和3年2月27日（土）・28日（日）
10時から16時30分（入館は16時まで）

5 職員による解説実施時刻

- ① 11時00分～11時30分
- ② 14時00分～14時30分

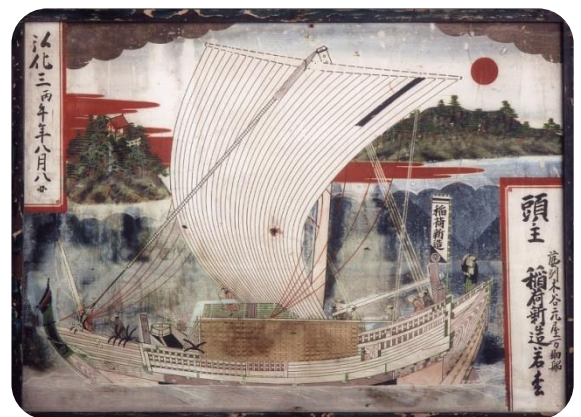
6 入館料

無料

7 展示内容

北前船とは、北海道・東北・北陸・瀬戸内・上方（大坂・京都）の諸藩を、瀬戸内海や日本海を通る西廻り航路によってつないだ廻船であり、江戸時代はこの北前船による遠隔地交易が盛んに行われた。

安芸津に目を向けると、こうした廻船業者が台頭するのは江戸時代中期頃である。『芸藩通史』は木谷村を1300石以上の船を持つ村として挙げており、安芸津でも海運業が行われていたことが分かる。出雲や輪島（石川県輪島市）など日本海沿岸の港の記録に、安芸津の船が寄港したことが記載されており、瀬戸内海だけでなく日本海にも進出して流通を担っていたことが分かる。今回の企画展ではこの「北前船」をテーマに、その歴史について、解説と展示を行う。



三国湊の神社に寄進された木谷元屋の船絵馬